

4 (月)

主を知るための安息日

出エジプト記三一章12〜18節

あなたがたは私の安息日を必ず守らなければならぬ。それは、私とあなたがたの間の代々にわたるしるしであり、私があなたがたを聖別する主であることを知るためのものである。(13)

5/

十戒で語られたように、主はもう一度安息日を守るべきことを教えます。安息日の教えを受け止める際、なぜ主がこの日を設けられたのかを理解する必要があります。安息日に労働を止めるのは、ただ肉体を休ませるためではありません。日ごとの働きから離れて、神ご自身に心を向けるためです。聖書の神が私たちの人生の主であることを心と体に刻み込むために必要なのです。私たちは普段の生活に熱中するあまり、主を忘れてしまうことがないでしょうか。もし、週に一度の主を礼拝する日が定まっておらず、いつでも自由な時間に礼拝するようにと言われたなら、私たちは一体いつ礼拝するでしょうか。安息日が定められているのは主の恵みです。私たちが主を知るために、主は私たちを招いてくださるのです。「静まれ、私こそが神であると知れ」(詩篇四六)。